



平成二十五年八月から始まったこのお便りもお陰様で百号を迎えました。これまで御縁を頂いた方にもっと神宮寺の事、真言宗や仏教の事を知って頂きたいと一念発起し、走り出した一号が、つい最近の様であり、遠い彼方の様であり、不思議な感覚です。二百号を目指して精進しますので、これからもどうぞご愛顧くださいませ。

善知識

良啓

修業時代、夜な夜な経文や本を読破しており、華嚴経を読む事がありました。華嚴経は大乗經典に分類されますが、真言密教の概念が見受けられ、また、華嚴経の本尊は毘盧遮那仏（びるしやなぶつ）。太陽の輝きの仏様）で、真言宗の根本仏である大日如来と団体と言われています。この様な類似点から親近感が湧きましたが、その内容もとても興味深いものでした。

登場人物の善財童子は、裕福な家庭の出身ですが、煩惱にまみれて、道を失っていました。そこで、文殊菩薩の導きにより仏法を求める旅に出ます。その中で五十三名の人から様々な教えを授かり、最後に普賢菩薩により仏になる事を約束されると言う内容です。このメンバー構成が面白いのです。仏様、王様、僧侶はなるほどですが、仏教以外の宗教者、少年、さらには遊女まで、多士済々の顔ぶれです。でも、皆さん、それぞれに真理や信仰を持ち、その善知識を善財童子に授けられます。

仏教の長所は、懐の深さです。仏教のみが唯一の教えでなく、他の宗教やどの様な職業にも真理は含まれている。上から見下すのではなく、共に高め合う。その精神を学ぶ事が出来る素晴らしき教えが華嚴経にあります。また、その出会いや物語も情景豊かで、読み応えがあります。

コロナ禍で人とのつながりが制限される今だからこそ、人とつながる事で道が開けた善財童子の物語は大いなる助けになると思っています。ご興味ある方は、様々な書籍がありますので、ぜひご一読ください。

組踊 de 仏教 2

【万歳敵討】 奈緒子

前回の組踊の仏教では、住職と寺の小僧が登場する【執心鐘入】を紹介しました。今回は、【万歳敵討 まんざいてきうち】です。「組踊」は、琉球音楽にのせて古語のせりふと踊りで、約300年も演じられてきた国指定重要無形文化財です。

この作品の初演は1756年。ザルツブルクでは、かの有名なモーツァルトが誕生した年でもあります。

【あらすじ】：那覇の高平良御鎖（たからでーらうざし）は、欲しかった大謝名比屋（おおじやなのひや）が持っていた名馬を手に入れられなかった事を恨み、闇討ちしました。大謝名の息子である謝名子（じやなぬし）は、父の仇を討つ機会を狙っていましたが、とても一人では無理だと考えたので、弟で僧侶の慶雲に協力を求める事に。自分は僧侶だからと慶運は渋りましたが、説得し二人で敵を討つことにしました。その頃高平良御鎖は、不吉続きの厄を払うために、家族を連れて浜辺で厄を清めに行く事にします。謝名の兄弟は、旅芸人（万歳師）に姿を変え浜に近づいて、高平良御鎖を討ち果たし、父の仇をとりました。」

神宮寺の口伝では、【万歳敵討の僧侶・慶運は、普天間の法印（僧侶の位）の弟子】と聞いています。現在資料を読みほどこしている最中ですが、もし本当ならと：約300年前の神宮寺に思いを馳せております。

さて、**神宮寺除夜の鐘つきの時期**になって参りました。

今年も新型コロナウイルス対策の為、**完全予約制**とさせて頂いております。

皆様とスタッフの安全のため、ご理解の程宜しく願います。

お電話・SNS・寺務所窓口にて受付も始まっておりますので、ご興味ある方は、是非ご予約下さい。

お正月も初詣は神宮寺に是非ご参拝下さい。1月には様々な縁日がございますので、分散して安心の初詣が出来ますよ。

